

新聞に親しみ、社会に目を向けることのできる生徒の育成 ～新聞の活用を通じた実践～

高鍋町立高鍋西中学校

教諭 下田 睦夫

1 はじめに

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で活動の基盤となる、いわゆる「知識基盤社会」と言われている。そのためには、学力はもちろんのこと、豊かな心、たくましい体を備えた「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童生徒の育成が必要である。そのような中、諸調査によると全国的に学習意欲や学習習慣、思考力や判断力や表現力等が充分とは言えず、「生きる力」を育む上で、基礎的・基本的な知識・技能の完全習得や活用を図る学習活動が課題となっている。

また現代は情報化の時代と言われて、新聞・放送メディア、インターネット等さまざまな情報手段が存在している。毎日さまざまな情報が氾濫し、情報過多の傾向は今後ますます増大するものと思われる。これらの氾濫する情報の波に飲まれることなく、それらの情報を単に取り入れるだけでなく、その情報をもとに自ら考え判断していかなければならない。

研究を進めていくにあたり、新聞記事を毎日の学習課題とし、それらの情報を生徒一人一人が自ら判断し、自ら考える「たくましく生きる力」を育成したいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

国語、社会、保健体育、総合的な学習の時間、道徳、学活等の時間に新聞を活用し、新聞記事を毎日の学習課題とすることにより、新聞を通して「社会に目を向けることができる力」の育成を図る。

3 研究の仮説

- 新聞を目にする環境を設定することにより、新聞への親しみが増し、社会事象に興味・関心を持ち、その意味や意義、問題点等について考え、社会の変化に対応できる生徒が育成されるだろう。

4 めざす生徒像

- ①新聞記事から世の中の仕組みや問題点等について興味・関心をもつ生徒。
- ②新聞記事を学習資料として活用できる生徒。
- ③新聞の機能や役割を理解し学習のまとめができる生徒。

5 研究の内容

- ①毎日の学習課題（毎日ノート）への取り組み
新聞に関する調査の結果、生徒はあまり新聞に触れていないことと、積極的に活用しようとする生徒が少ないことが分かった。そこで生徒が新聞を読むことが大切であると考え、以下の取り組みを行った。

まず、新聞記事による課題を全校（毎週金曜日）・学級（毎日）で行い、全員の生徒に新聞記事の感想や意見を書いてもらった。

継続的に新聞記事を読むことを通して、生徒は社会事象に目を向けるようになり、記事に対する感想やコメントを書き添えることにより、情報を受け止めるだけでなく、自分なりに考えをもち、深めることができるようになってきた。廊下にNIEコーナーを設けて、毎週各学級1名の「新聞記

事の課題」の感想（生徒・保護者・担任）を掲示している。生徒は掲示された感想プリントに関心を持って見ている。感想のプリントをお互いに参考にしあうことも、自分の考えを深めることに役立っている。

②環境づくり

どのように新聞を活用したらよいか見て分かるように、校長室・保健室前に「NIE コーナー」を設置した。スクラップ新聞の見本や新聞記事の感想を掲示したり、NIE 担当者がスポーツなどの生徒に夢を与える記事を自ら切り抜き、感想を添えて掲示したりした。また、テーマに沿って新聞を作成してあり、見やすく、充実したコーナーとなっていた。

③新聞作り（修学旅行新聞等）

2 年生は、修学旅行の新聞を作成し、自分たちの修学旅行の体験をまとめた。これも新聞作りを通して、自分たちの活動を振り返るものとなった。

このように新聞にまとめる活動は、まとめの学習活動として効果的であると考えている。

6 道徳授業実践（2年3組）

題材名は「1年後の私に」（理想の実現）2年3組の道徳として授業を行った。班ごとに内容が違う新聞記事のコピーを配り各自で感想をプリントにまとめていった。そして、発表。尼崎・JR 脱線事故で娘を亡くした母が、オペラ歌手を目指していた娘の遺志を継いで歌を学んでいるという記事、リストラ歌手の馬場俊英さんがNHK 紅白歌合戦に出場するという記事に感想を述べた。皆の中学校生活はあと1年。感動を持って1年をがんばってほしいという思いを込めて、アンジェラ・アキさんの「手紙～拝啓十五の君へ～」の歌詞カードを一人一人に配り、この曲を教室に響かせた。曲を聴いた生徒は「自

分を信じて歩み続けることが大事なんだと思った」「きついこともあるけど、もっともつがんばっていこう」などと感想を発表。1年後（15歳）の自分に手紙を書こう、と呼びかけた。生徒たちは照れくさそうにしていたが、次第に真剣に筆を進めていった。

目と耳から心に迫る道徳の授業は、生徒が自分と向き合う貴重な時間となった。

○新聞記事による課題の取り組み

担任を受け持ったクラスの生徒全員に、毎日の課題として「毎日ノート」を出している。その日の新聞記事から読ませたいニュースを1つコピーして配布し、家で生徒に感想や意見を書いてもらう。さらに、保護者にもだ。翌日、これに私がコメントして返す。

記事のとらえ方が違う生徒に対しては否定せずに分かりやすく説き、いい感想や意見は皆の前で紹介する。4月当初に比べると、記事内容を的確にとらえるようになったり、文章を書く量が増えたり、文章の表現力が高まったりなど、うれしい効果が出ている。また、親子で対話するいい機会にもなっているようだ。

NIE 実践指定校となった昨年からは、週1日だけだが毎週、全校で取り組んでいる。NIE 実践は基本的に私が中心だが、国語や保健体育の先生方にも協力してもらっている。授業に使えるような記事を事前に準備するなど教員の負担はあるが、同じ記事でも新聞によっていろいろなとらえ方があることを知り、自分なりの意見を構築してほしいと思っている。

7 研究の成果

新聞に親しむことに重点を置き、全学級に新聞記事を週1回配布し、新聞記事に関する感想・コメントを生徒、保護者、担任に書いてもらった。生徒は記事の内容や感想など興味を持って見ている姿が見受けられた。

1 年間の研究を通して、日常の常時活動により、生徒は新聞記事に対する興味・関心は高まり、今、何が社会で起こっているのか、どのような問題があるのかなどを考えるようになってきている。依然として番組欄やスポーツ欄を中心に読む生徒も多いが、それ以外の記事に目を通す生徒も確実に増えてきている。

8 今後の課題

①新聞記事を使った授業の充実

②新聞を読む時間の確保と習慣づけの工夫

③新聞記事の課題への取り組み充実

中学校生活を送る生徒は、学習に部活動に忙しい毎日を送っている。どのようにすれば生徒が新聞に触れる時間をつくり出せるか、新聞を読もうとする意識を高めていけるか、取り組んできたが家庭での新聞活用実態を見ると、まだ充分とは言えない。今後、新聞を読む習慣をさらに育て、新聞の内容を対話の題材にできればと考える。私たち教師にとって新聞記事を授業に使う実践を通して多くの事を学べたことは、大変良かった。今後も新聞に親しみ、社会に目を向けることのできる生徒の育成のために支援を続けていきたい。